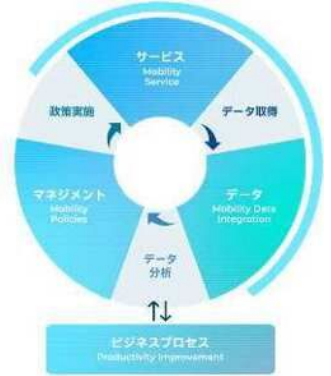


地域交通 DX 推進プロジェクト「COMmmONS」 モビリティシェアリングシステム標準化プロジェクト

1. 地域交通DX推進プロジェクト「COMmmONS」概要

- 地域交通の領域では、MaaS アプリや配車アプリなど、デジタル技術を活用したモビリティサービスの普及が進む一方、業務モデルやシステムが独自に構築されてきた結果、それぞれのサービスやデータが連携していない「サイロ化」の課題が生じている。
- 「交通空白」解消に向け交通サービスの品質や生産性の向上が喫緊の課題となるなか、「サイロ化」を打破し、連携・協働を軸とした地域交通のDX を体系的に推進するための新たなアプローチが必要。
- 地域交通DX 推進プロジェクト「COMmmONS(コモンズ:Code for Mobility Common Society)」は、サービス、データ、マネジメント、ビジネスプロセスの4つの柱でデジタル技術を活用した課題解決のベストプラクティス創出と標準化を一体的に推進し、その横展開を図ることで、社会の共通財産となる技術的アセットを生み出す新たな取組。



2. モビリティシェアリングシステム標準化プロジェクト概要

背景と目的

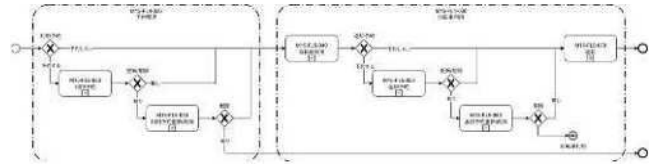
- 同じエリアに複数のシェアサイクル事業者がサービスを展開しているが、現状では同一事業者のポート間でしか貸出・返却ができず、利用者の利便性が低下している
- ポート用地が限られている中、事業者ごとに個別にポートを設置する必要があり、用地確保が事業者間の競争となっている。
- 複数のシェアサイクル事業者によるポート共有・情報連携・精算連携等の標準化を実現し、地域全体でサービス品質と事業継続性の向上を目指す。



共同利用ポートの例

取組内容

- シェアサイクル利用時の標準業務モデル(予約・貸出・返却、事業者間精算)を策定。
- 共同利用ポートの運用や情報連携を実現するための標準API仕様を開発。
- 標準業務モデルおよび標準API仕様を実証地域で導入し、その有効性を検証。



標準業務モデルイメージ

3. 実証実験概要

標準業務モデルおよび標準API仕様の有効性を検証することを目的として、実証実験を実施。

実証期間	2026年2月中旬～2月下旬
実証エリア	東京都の一部
参加方法	<ul style="list-style-type: none"> 事前に「HELLO CYCLING」または「Lime」アプリをダウンロード 実証エリアでダウンロードしたアプリと異なるシェアサイクルサービスのポートで自転車を貸出・返却



HELLO CYCLING



Lime

4. 今後の展開

- 標準業務モデルおよび標準API仕様について、複数のシェアサイクル事業者や地方公共団体へのヒアリング・意見照会を実施。
- 実証実験およびヒアリング・意見照会の結果は、技術検証レポートとして取りまとめ、プロジェクト「COMmmONS」の公式ウェブサイト※で公開予定。

※「COMmmONS」公式ウェブサイト: <https://www.mlit.go.jp/commmmons/>

5. 残された課題・対応方針

- 満空情報を仲介する機能の運用主体について検討
各社の責任範囲を明確化し、共同運用のためのルールを策定する
- 標準業務モデルの活用推進
標準業務フロー・API仕様を活用したポートの共同利用に参加するシェアサイクル事業者や地域の拡大を促進する

